

ふるさと探訪

第76回 関屋川の堰堤（えんてい）



高縄山系に源を發し中山川に注ぐ関屋川は、普段は表流水の少ない典型的な天井川ですが、古くからひとたび大雨になると氾濫を繰り返す、流域の地区はそのつど洪水の被害を受けてきました。



▲取材日には川に水がなかったため砂防堤の連なりがまるで巨人の階段のようでした
▶堰堤に埋め込まれた石板には「昭和九年度」の文字が…



このため明治期から砂防堰堤工事が断続的に続けられ、階段状に砂防堤が連続する珍しい景観をもつ川となりました。特に支流のウルメ川の堰堤群は、20〜30メートル間隔で多くの堰堤が連なっていることから、(社)土木学会の近代土木遺産に選定されています。護岸の改修と合わせたこうした河川工事により、往時のような洪水被害が防がれているのです。

愛媛県最大級の関屋川扇状地と、その地形を形成した川の流れ。長い時間と多くの人々の苦勞によって川は姿を変えましたが、両者が織り成す



台風12号による増水時（写真右）と通常時でも、こんなにも表情が異なります。



扇状台地の風景は、不可分な一体感もあいまって、のどかながらとても印象的です。

